2　地理歴史・公民

学校番号	１００８

令和３年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	３年前期
使用教科書	「高等学校　日本史Ａ　最新版」　（清水書院）						
副教材等	図説日本史通覧　（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史的事象に「なぜ」の視点を持ち、自ら調べ、多様な意見に学びながら、自らの歴史観を育もう。
・近現代日本史を、世界史との応答の中で捉え、国際社会に主体的に生きる日本人としての教養を身につけよう。

2　学習の到達目標

・諸資料を多角的に検討し、歴史的思考力を培う。
・現代の諸課題を近現代史を中心とする歴史と結び付け歴史的観点から考察することができる。
・世界と日本の歴史を関連付けながら理解し、国際社会に主体的に生きる日本人としての教養を身につける。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚をもつ。	現代日本の諸課題を歴史的観点から考察し、世界史との応答を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現できる。	近現代史を中心とする日本と世界の歴史に関する諸資料を自ら調べ、多角的、批判的に検討する事ができる。	近現代史を中心とする日本と世界の歴史についての基本的な事柄を応答させながら理解し、その知識を身に付ける。
評価方法	ワークシート レポート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査
	〔テーマ学習〕 振り返りシート	〔テーマ学習〕 レポート、プレゼンテーション	〔テーマ学習〕 レポート	
	※「テーマ学習」とは自らテーマを設定して行う学習動で、適切な時間を確保して行う。			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間まで	歴史に学ぶ 近代史を学ぶ前に	Ⅰ 東アジアと日本の文明化 Ⅱ ユーラシア世界の激動と武家幕府の成立 Ⅲ 幕藩制国家の成立と東アジア世界 【テーマ】 アイヌの人びとの人権を通して近現代の日本の課題を考察し、調査結果をレポートにまとめて発表する。	○	○	○	○	a:自然環境と歴史、日本の歴史と世界の歴史のつながりに関わる主題を意欲的に考察し、地理と歴史への関心を高めようとしている。 b:設定された主題について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:設定された主題について、事例の考察に必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:設定された主題について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	ワークシート
	明治維新と近代国家の形成	1 ペリー来航と日米和親条約 2 通商条約の締結と安政の大獄 3 貿易の影響と尊王攘夷 4 討幕運動の展開 5 新しい政治体制をめざして 6 近代国家の成立と国民の創出 7 近代化政策の展開 8 文明開化と民衆 9 新政府の国際承認 10 国境の画定 11 大久保政権 【テーマ】幕末明治維新の激動を生きた人物	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:開国以後、明治維新をへて近代日本が急速に形成された過程を意欲的に考察し、地理と歴史への関心を高めようとしている。 b:幕末明治維新の激動期を生きた人物をとりあげ、個人の人生と時代のダイナミズムを表現する。 C:文献、絵画、地図、写真、映像、統計、グラフなどの諸資料を読み解くとともに、その成果をレポートや年表や地図などに表現する。 d: 文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸制度の改革にともなう社会・文化の変化を多面的に考察する。	定期考査 ワークシート レポート

	立憲政体の成立と国際的地位の向上	1 自由民権運動と政党の結成 2 松方財政と民権運動の激化 3 立憲体制の確立 4 初期議会と条約改正 5 日清戦争 6 日清戦争後の政治と日英同盟 7 日露戦争 8 満州経営と韓国併合 9 近代産業の発展 10 社会問題の発生と政府の対応 【テーマ】 明治の思想・学問・文化について調べる	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a: 日本における近代立憲政体の成立と国際的地位の向上について、意欲的に考察し、歴史への関心を高めようとしている。 b:欧米列強との緊張関係やアジア諸国民との関係の中で明治の思想・学問・文化について調べる。 c:文献、絵画、地図、写真、映像、統計、グラフなどの諸資料を読み解くとともに、その成果をレポートや年表や地図などに表現する。 d:条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化、政党の役割と社会的な基盤に着目し、国際環境や政党政治の推移について、また産業革命の進行、都市や村落の生活と社会問題の発生、学問・文化の進展と教育の普及に着目し、近代産業の発展と国民生活の変化について考察する。	定期考査 ワークシート レポート
	第一次世界大戦と日本	1 護憲運動と大正デモクラシー 2 第一次世界大戦への参戦と国際関係の変化 3 ロシア革命とシベリア出兵 4 ヴェルサイユ講和とワシントン体制 5 政党政治の展開 6 大戦景気と産業構造の変化 7 社会運動の高まり 8 国民生活の諸相 9 大衆文化の成立 【テーマ】第 1 次世界大戦と反戦平和の取り組み	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:日本におけるデモクラシー運動の歴史を、国際社会の反戦平和と民主主義的動向と関連付けながら意欲的に考察し、歴史への関心を高めようとしている。 b:第 1 次世界大戦と反戦平和の取り組みについて、世界的な動向に目を配りながらそ調べ、その成果をレポートや年表や地図などに表現する。 c:文献、絵画、地図、写真、映像、統計、グラフなどの諸資料を読み解く。 d:第一次護憲運動からの政党政治の推移と近代産業の発展と大衆文化の形成が国民にもたらした影響と第一次世界大戦が我が国の外交政策や経済発展に与えた影響に着目し、考察する。	定期考査 ワークシート レポート

前期期末まで	第二次世界大戦と日本	1　協調外交と金融恐慌 2　世界恐慌と昭和恐慌 3　満州事変と国連脱退 4　二・二六事件と日中戦争 5　第二次世界大戦の勃発と日本 6　アジア太平洋戦争（太平洋戦争）の勃発 7　日本占領下のアジア 8　戦時下の国民生活 9　日本の敗戦 【テーマ】なぜ、太平洋戦争は防げなかったのか、国際的視点を入れながら調べる。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a：世界恐慌からファシズム体制に至る国際社会の動向、国内政治と経済の動揺、アジア近隣諸国との関係に着目し、対外政策の推移と戦時体制の強化など、第二次世界大戦と日本のかかわりについて、意欲的に考察し、歴史への関心を高めようとしている。 b：なぜ、太平洋戦争は防げなかったのか、国際的視点を入れながら調べ、その成果をレポートや年表や地図などに表現する。 c：文献、絵画、地図、写真、映像、統計、グラフなどの諸資料を読み解く。 d：世界恐慌からファシズム体制に至る国際社会の動向、国内政治と経済の動揺、アジア近隣諸国との関係に着目し、対外政策の推移と戦時体制の強化など、第二次世界大戦と日本のかかわりについて考察する。	定期考査 ワークシート レポート
	戦後政治の動向と国際社会	1　占領と改革 2　占領下の政治と労働運動 3　日本国憲法の制定 4　冷戦と占領政策の転換 5　戦後の国際情勢と日本の独立 6　戦後の国民生活と変化 【テーマ】太平洋戦争の終結が、アジアの国の国民にどのように迎えられたかを、各国別に調べ、壁新聞を作って発表する	○ ○ ○ ○ ○ ○	○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	a：敗戦後の新しい日本の出発について、国際社会の動向を視野に入れながら、意欲的に考察し、歴史への関心を高めようとしている。 b：太平洋戦争の終結が、アジアの国の国民にどのように迎えられたかを、各国別に調べ、壁新聞を作って表現する。 c：文献、絵画、地図、写真、映像、統計、グラフなどの諸資料を読み解く。 d：敗戦と新しい日本の占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目し、我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察する。	定期考査 ワークシート 壁新聞

	経済の発展と国民生活の変化・現代の日本と世界	1「55年体制」と安保闘争 2 高度経済成長期の日本 3 安定成長から経済大国へ 4 経済大国へのみち 5 世界史の転換 6「55 年体制」の崩壊 7 今日の世界と日本の課題 【テーマ】祖父母と父母の生活史の聞き取りを通じて、家族の戦後日本史にまとめる。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:戦後の経済復興・高度成長から現代の日本について意欲的に考察し、我が国の課題と役割について主体的に考えることができる。 b:祖父母と父母の生活史の聞き取りを通じて、家族の戦後日本史をまとめ、考察する。 c:文献、絵画、地図、写真、映像、統計、グラフなどの諸資料を読み解く。 d:戦後の経済復興、高度経済成長と科学技術の発達、経済の国際化、生活意識や価値観の変化などに着目し、日本経済の発展と国民生活の変化について考察する。	定期考査 ワークシート レポート

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。